

議会だより

こさか



入場行進での中学生の演技



小中合同運動会・体育会

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. 3月定例議会 新年度予算審議 | P2~5 |
| 2. 特別委員会の設置 | P6 |
| 3. 一般質問 (3 議員登壇) | P7~9 |
| 4. 事務調査の報告 | P10~11 |
| 5. 議会報告会の予定 | P12 |

2013年度
vol. 65
平成25年6月10日発行



入場行進での小学生

3月定例議会

平成25年度 一般会計予算・特別会計予算 小坂町産業振興促進条例 などを可決



一般会計・予算審議の結果

平成25年度一般会計当初予算を慎重な審議の結果、原案のとおり可決すべきものとしました。少数意見はありませんでした。

平成25年第2回小坂町議会定例会は、3月4日から14日まで11日間の会期で開催されました。今議会では、平成25年度予算について予算特別委員会を設置し、委員長に鹿兒島巖・総務教育常任委員長、副委員長に栗山忠三・福祉産業常任委員長を選出し、3日間にわたって一般会計・特別会計の予算を審議しました。

審議にあたっては、あらゆる角度から各般にわたる意見・要望を述べており、予算執行にあたっては、これら議会の意見・要望を最大限に尊重して、最少の経費で最大の効果を得られるよう、特に次の事項について要請しました。

要請事項

①大規模な事業を進めるにあたっては、議会・住民の理解が十分に得られるよう説明責任を果たされたい。
②明治百年通りにぎわいづくりプロジェクト事業の年度別計画については、平成26年度以降の事業計画について見直しを含めて議会と十分協議されたい。

③七滝小学校の空き校舎利活用については、早急に地元と協議し、利活用のタイムスケジュールを明確にされたい。また、旧十和田小中学校の利活用についても検討を進められたい。
④大規模工事発注にあたっては、入札方法を検討されたい。
⑤みんなの地域づくり事業

予算特別委員会

審議のあらまし

●総務費

成田委員 みんなの地域づくりについて。

総務課長 みんなの地域づくりは自治会自ら活性化のために取り組んで頂きたいという事業で、各自治会において検討して頂き、計画づくりから手伝いさせてい

ただきながら進めていきたい。
中村委員 元気村づくりあるいは地域介護福祉空間整備事業というのは町民に直結したいへんやる気の出る事業だと思うがどうか。
町民課長 高齢化率が高まる中で、いかにして地域をみんなを支えていくかとい

や県の元気村づくり事業を積極的に推進し、地域の活性化をはかられたい。

特別会計・予算審議の結果

各特別会計とも必要な予算措置と認め、原案のとおり可決すべきものとしました。少数意見はありませんでした。

う大きな課題に対して、地域介護福祉空間整備事業交付金等を活用することも有効であると考えます。

亀田委員 来年度から七滝小の管理は教委から町に移行することになるが、七滝小学校の活用方法についてはどうなっているか。
総務課長 七滝地区の方々が中心となった検討委員会から、地区のコミニティ

の場ということで提案をいただいております。また有志の方々も独自に相談されていると聞いております。二十五年度中はどういった利活用がよいか地元の方々と相談しながら進めてまいりたいと考えております。

●民生費

栗山委員 昨年の敬老会は

施設からの参加者の移動の問題、食事の問題、冷房など課題を残したと思っっている。今年はどうに考えているか。小坂ふくし会などとも協議を。

町民課長 予算としては合同を前提に考えており、いろいろ反省点があり、ますのでそれを踏まえて、ご指摘のように関係者との協議は行っていきたい。

小笠原(憲)委員 ふれあい安心電話・緊急通報システムはその後どう取り組まれたか。

町民課長補佐 民生児童委員協議会の定例会の際にチラシを作ってPRしてまいりました。台数は多少増え、現時点では約三十台ほどの設置の状況です。

中村委員 町は高齢者が多く、また一人暮らしも多い。冬期間だけ共同生活をするグループリビング形式の住宅を造る発想はないか。田川上小学校等を改装して、地域空間整備事業の交付金を活用したきめ細かい対応ができるのではないか。

町民課長補佐 国の施策の一つに生活支援ハウスがあ

り、すでにアカシアの郷に併設する形で町が主体的に事業を実施して小坂ふくし会に委託しております。新規事業は町が主体になるのか、社会福祉法人あるいは民間が主体になるのかというところ、意見があるところだと思っております。

●衛生費

本田委員 がん健診はあるが不妊治療は対応していないがどう考えるか。

町民課長 要望があるかどうかについて調査する必要があります。

●農林水産費

目時委員 TPP問題について当町ではどう考えているか。

町長 私としては、秋田は農業県であると言うことを踏まえて、また農業そのものの基盤が弱いと思っております、現時点では反対の態度をとらせて頂きたい。

●商工費

目時委員 通年観光ということではなにか考えていることではないか。冬期間の七滝のライトアップ、かんじき(スノーシュー)を用意しての観光などはどうか。ま

た国際交流広場等で取り組めるものはないか。十和田湖にかかわる交付税の使途はどうなっているか。

産業課長 冬場の課題は大きなテーマと考えております。七滝は是非検討したいと考えています。

十和田湖に関しては、鉛山の景観対策事業から十和田湖畔温泉支援事業までの六項目、千四百九十四万円を予算化しており、また四款で放置ポイント対策事業として計上しております。

榑谷委員 十和田湖への観光客の誘客で、前年度は一人二千円をエージェン트에補助を出すとしたが、現場ではエージェンと組まなければ誘客をして貰えなかったと不評を聞く。これまでの方式とは別の、小坂の業者に誘客できる新たな企画は。

産業課長 そういった声を聞いております。団体客を誘致することを目的に行ったところであり、二十五年度は新たに団体客に限らず、少人数あるいは個人利用のバス等に対する補助を考えております。

た国際交流広場等で取り組めるものはないか。十和田湖にかかわる交付税の使途はどうなっているか。

亀田委員 町道、生活道の未舗装部分は何のくらいあるか。未舗装部分については自治会等から毎年要望が出ていると思うが、舗装計画はどうなっているか。

建設課長 町道一級、二級の幹線は概ね五十%ですがその他については三十%程度です。自治会からの要望は毎年連協を通して頂いておりますが、まだ手を付けていないところもあり、現地を見ながら順次進めているところではあります。

栗山委員 入札は依然として高落札がある。どのように考えているか。



条例の制定・改正		平成25年度予算																	区分																						
		議案名																	審議された議案一覧																						
		一般会計予算	国民健康保険特別会計予算	後期高齢者医療特別会計予算	介護保険特別会計予算	簡易水道事業特別会計予算	歯科診療所特別会計予算	中小企業従業員退職金等共済事業特別会計予算	菅原ヤエ美学資金特別会計予算	土地取得特別会計予算	文化基金特別会計予算	下水道事業特別会計予算	小坂財産区特別会計予算	水道事業会計予算	簡易水道事業特別会計への繰入れ	下水道事業特別会計への繰入れ	議会の議決すべき事件を定める条例の一部改正	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正	空き家等の適正管理に関する条例の制定	障害程度区分認定審査会の委員の定数を定める条例の一部改正	指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の制定	指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の制定	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	賛成	採決		
																							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	反対	状況
																							可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	結果		

建設課長 極端なものでは九十九、七、八%というものがあります。二十三、四年の平均値では九十五、六%ですが、ただ業者の積算度もかなりオープンになっており、また設計額を足切りすることは国から禁じられていることでもありご理解願いたい。

亀田委員 企業誘致への取り組みは。

産業課長 直接企業等と回るといふより、東京等での企業誘致の会合などに出席し交流を深めてきているというのが実状です。

小笠原(正)委員 町内企業への訪問はまだ取り組まれているようだが、町として町内企業を訪問し、事業内容や意向などを知ることが必要ではないか。
産業課長 町内企業の把握に努めてまいります。

●教育費

亀田委員 小中九年間の一貫教育に期待しているが、良い点だけではなく、想定されない不安な部分も出てくるのではないか。

教育長 メリット、デメリットの両面があると想定しております。

デメリットで一番気を付

けていかなければならないのは、子どもたちの人間関係の固定化で、この点をそれぞれの発達期に計画的に組んでいきたいと考えます。
船水委員 九年間というが、実はその前、例えば保育所からの長い期間となる。小坂マリア園などとの話し合いはされているか。
教委事務局長 保育所とは連絡協議会を設置しております。こういった問題についての対応なども協議して頂いております。

教育長 ゼロ歳から中学卒業までのこどもをどう育てるのかという視点でやっていきたいと考えます。



明治百年通りにぎわい創りのプロジェクト事業に関しての集中審議

成田委員 二十八年度ベースで見込まれた経費資料が出されたが、県のヒアリングはこれを基に行われたということではないか。

県からもいろいろ質問が出たのではないかと。どのような質問が出されたか。

産業課長 県のヒアリングはそのとおりです。協議の中で一番のネックは駅構内で行う体験運転、その許認可、国交省鉄道局の見解、運輸局の指導等についてでしたが、それらについては直接運輸局に出向き、結果、実現性があると判断されました。踏切問題は道路管理者との協議を重ねての計画となっております。県は当初、駅から百年通りまでを範囲と考えて

おりましたが、協議の中で、既存の商店街なり、町民が集う場所は栗平地区に移っているうえ、役場も移るということから、地元の人たちの交流を考える必要との指摘を受け、現在の計画になりました。

成田委員 今回は二十八年度ベースということであるが、本来はその以前から五カ年にわたって収入、支出があると思うが、資料は提出できるか。

産業課長 現時点では暫定的なオープンということ、まだ資料としては持っておりません。試案のものを後ほどお示しします。

亀田委員 二十八年度までの計画の中で、事業の変更とか予算の増減などが出てくると考えるが、県から認定をもらった段階では、そういういった変更は無しということか。

産業課長 事業化で最初に動いたのは国交省事業の都市再生整備で八億三千二百万円の全体計画を示し、そ

条例の制定・改正																			区分					
																			審議された議案一覧					
																			議案名					
																				指定地域密着型サービス事業者及び指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に関する基準を定める条例の制定	11	0	賛成	採決
																				一般廃棄物処理施設の技術管理者の資格を定める条例の制定	11	0	賛成	採決
																				小坂鉦山事務所使用料徴収条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				「天使館」使用料徴収条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				産業振興促進条例の制定	11	0	賛成	採決
																				道路占用料徴収条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				町道の構造の技術的基準等を定める条例の制定	11	0	賛成	採決
																				都市公園条例の制定	11	0	賛成	採決
																				町営住宅等の整備基準を定める条例の制定	11	0	賛成	採決
																				町営住宅管理条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				町立学校条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				町営プール設置条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				町営運動場条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				町営運動場使用料徴収条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				町立小坂図書館設置条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				町立総合博物館郷土館設置条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				スポーツ振興審議会条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				下水道条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				給水条例の一部改正	11	0	賛成	採決
																				水道事業等布設工事監督者の資格基準等を定める条例の制定	11	0	賛成	採決
																				一般会計補正予算(第6号)	11	0	賛成	採決
																				国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	11	0	賛成	採決

れにあとから未来創りプロの県費が二億円プラスされることになりました。これだけの規模になりますと入札もあり、その結果によっては動くと思います。また個々の事業も当然変更はあり得ると考えます。

亀田委員 庁舎跡地の駐車場については大いに疑問がある。レールバイクについてであるが、これは鉄道マニアが多いと思うが、鉄道マニアはどのくらいか。

産業課長 大きい観光地では駐車場が整備されていて、目的の地へは歩いていくという整備がされていると見ております。普段は今までの駐車場を使って頂きながら、イベント等の場合の駐車場として庁舎跡地を活用するという計画とご理解ください。鉄道マニアは人口の一・五%、関東では百万人と聞いております。

成田委員 当初は鉄道が好きな方やボランティアで運営すると聞いていたが、今回指定管理で行うということで、これまでの説明と変わった部分があるとすれば示して頂きたい。

産業課長補佐 まちづくり会社は建物の管理、全体的な予算の管理ということ

で、人の関係・保存団体というところが担い手となりますが、月一回程度の体験運転、イベント時の担い手として実際の鉄道の運行等になるということと考えています。

小笠原(憲)委員 町に活気を生み出すために何かを仕掛けていかないとじり貧状態と考える。

町中観光の観点からできるだけ既存街を歩かせることで経済効果が出てくるのではないかと。役場の跡地を駐車場にして必ず歩かせる。そしてシャッター街をもう一度蘇らせるように店舗を張り付けさせるなどが必要ではないか。大変なビジネスチャンスになる。

役所が創ってくれたもの。ただ頼るのではなくて、民間人も知恵を出せるような仕掛けを投げかけることが必要と考えるが。

産業課長 テーマパーク化ということで例えば、駅に付き物の駅弁を町の食材を使って開発する。農家や商工業の方々を含めて提案して頂けるような取り組み。体験運転ではある程度の講習期間が必要になる場合もあり、宿泊も必要となり、ホテルや旅館との連携を

図って行かなければならないし、さらには十和田湖観光ともつながっていくと考えています。できるだけ歩いてもらうということはそのとおりだと考えます。

目時委員 答弁で計画は変更可能と受けとめてたが、国や県にもそれぞれ計画があるわけで、少なくとも二十五年度の予算成立後には早めに町の計画を固めなければ県や国に対して失礼にあたるのではないかと。

町長 毎年、国、県に報告をしながら事業を進めていくものだと思います。報告を出す前にご意見をいただきしっかり進めて行きたいと考えます。

成田委員 町中観光の核となるものはどこか。

産業課長補佐 総合案内機能を持つ施設として、二十七年年度オープンに向けて、二十五・六年度の中で具体化する方向で現在、国際交流広場トイレの隣が有力と考えております。

総括質疑

成田委員 にぎわい創出については商工団体の方々も良く理解できないまま周知できない状況にある。

審議の中でこの部分は予

算からは必ずすべきではないかという意見はいわせてもらった。事業の見直しはしていくという考え方は示されたが、この点は重要な部分と感じている。議会に対する説明のあり方について考えてもらわなければならぬと考えるがどうか。

町長 議員のみなさんには納得頂くために時間がなかったと思っておりますし、まだ理解をしきれない部分もあるかと思っております。この点はお詫びいたします。ただ、国・県との事業でありますことから今後も国・県に提出する前にご意見をお伺いして、手直し出来るところはやっていたいと考えます。

亀田委員 四年前に観光大使関連の予算に反対する立場であったが、これを復活させた。なぜか。

町長 観光大使そのものに反対したのではなく、これ以上増やすべきではないという立場でした。当選してから中心の方々をお訪ねし、ご意見をいただく中で

役職や肩書きで大使を受けて頂いていた方などが、役職を退くことを契機に辞任された方もあり、現在四十一名になっております。

審議された議案一覧

陳情	区分	平成24年度補正予算															区分			
		報告		その他											議案名					
最低賃金の大幅引き上げと、中小零細企業支援の拡充を求める陳情	審議された請願・陳情一覧	-	-	-	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	賛成	採決
		-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	反対	状況
採択	結果	報告	報告	報告	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	結果	

3月定例議会で特別委員会を設置しました

地域活性化対策特別委員会

〈調査事項〉

- ◎観光・地域産業の振興
- ◎少子化対策及び定住促進

議会改革特別委員会

〈調査事項〉

- ◎議員定数、議員報酬、政務活動費、通年議会、選挙公約の評価公表

両特別委員会とも、議長以外の議員全員で構成され、4月以降毎月調査活動を継続しています。

ひるがえって、近年における地方自治体の現状を見ると、長いデフレ不況のせいでも知れませんが、都市と地方の格差がますます拡大しており、このまま放置していれば、地方が消滅しかねない危機があると痛切に感じられるところで

当議会は、他自治体にさきかけて、議会報告会や、議会基本条例などを整備しながら、住民と共に歩む議会づくりに努めてきたところですが、肝心の議員個々の識見を拡げて、本当に住民の役に立つ議員になるための取り組みを、議会として組織的に取り上げてきたかとなると、残念ながら不十分であったと言わざるを得ないのが現実の姿です。



小坂町議会
議長 小笠原 稔

チエツク型から
提案型へ

このような危機感をもって、昨秋、中山間地における人口減少対策、少子高齢化対策、地場産業育成対策を中心とする先進地視察研修をしてまいりましたが、研修に参加した議員の一致した見解として、「行政施策は、町当局の提出を待つてチエツクするものではなく、議会自ら調査研究して、積極的に提言していこう。」となったところでして、運営委員長の報告のように、特別委員会を設置して対応することになりました。

今後とも、議員研修の場を拡げて、議員一人ひとりが、住んで良かったと思えるまちづくりに取り組み、皆さんの信託に応えるよう努めてまいります。

平成25年3月議会において、「地域活性化対策特別委員会」及び「議会改革特別委員会」の二つの特別委員会を設置しました。



議会運営委員会
委員長 成田 直人

魅力あるまちづくりと
議会活性化にむけて

このように、町民皆さんからご指摘のある議員定数や報酬のあり方を始め、議員の活動状況などを明確にするための情報公開、通年議会による監視態勢の強化など、先進地事例を検証するとともに、議会報告会や町民の皆さんとの懇談会を開催し、あるべき議会の姿に向かって取り組んでまいります。



全町一斉調査でデータベース化と積極的な情報発信で、Uターン・新規転入促進を

町長 前向きに検討したい。



鹿兒島 巖議員



災害などに備えて訓練

鹿兒島議員 空き家の存在は町民生活環境への影響、景観に関わる問題、さらに防災防犯問題など好ましいものではなく、さらにこれが放置状態となればその危険は大きいと考える。

今議会で空き家条例と関連する予算が提案されたことは時宜を得たものにとらえているが、まちづくりを推し進める観点から積極的な施策として発展的に展開することを提案したい。

一、全町一斉に空き家調査を行い、所有者の確認と併せて所有者が存続・解体・賃貸・売却などについて意向を持っているかを含めた調査を行いデータベース化を図ること。その後は定期的にデータベースの更新を行うということ。

二、一斉調査で把握した賃貸・売却希望について、さらに建て家面積、平面図、経過年数、土地の所有関係などの補充調査を行い町のホームページなどに掲載・発信し、Uターン、新規転入などの誘発促進策としてその情報を積極的に発信・活用すること。

三、一斉調査では職員力の活用を提案する。

町長答弁 民法上家屋等の管理者は占有者・所有者等であって、管理者は他人に侵害を与えないように管理する義務があります。しかし空き家等が適正に管理されていないこと起因する生活環境への影響、安全な生活への疎外、良好な景観の疎外などの問題からその適正管理を促すために町としての対策を定める必要があり今議会において小坂町空き家等の適正管理に関する条例を提案し可決頂いたところであります。

議員から提案の実態について所有者の意向を含め調査することは必要であると感じております。

提案の一、二、については前向きに検討してまいります。

三、については職員が地域に入って調べる、住民の中に職員が入ることによっていろいろなことが分かってくるというようなこともありますので、是非ともやっていきたいと思います。

小坂高校

現状での存続では展望が開けない！
生徒・保護者にとって魅力ある高校への
大胆な改革を求めるべき

教育長 提案は傾聴に値するものと考えます。

鹿兒島議員 先ごろ報道された県立高校入試一般選抜の志願者確定状況を見ると小坂高校への志願倍率が際だって低い数値である。

県教委は第7次高等学校総合整備計画を示し、鹿角地区は3校から2校体制への整備案を示しており、計画決定は二十五年度が山場と考えると、この状況は小坂高校の存続をますます危うい状況に追い込んでいくのではないかと危惧する。

状況を打開するために、これまでの存続運動ではなく、高校進学者にとって魅力ある高校へ大胆な改革を求め、存続の道を切り開くことが必要と考え打開策について具体的に提案する。

地場産業の振興と地元企業への雇用の促進を念頭に、環境技術科に加えて新たに環境化学科を設置し、工業系・環境化学系に特化した高校とすること。

県立高校設置権限は県教委であり、一義的には県教委への働きかけをさらに強めることが不可欠であるが、加えて知事部局への働きかけが重要であると考えます。

教育長答弁 指摘のとおり小坂高校の一般選抜入試の志願者倍率は定員割れと

なっており、県教委では一学年2学級規模の高校で入学者数が募集定員の3分の2以下の実態が二年間続いた場合、学校や地域事情を考慮した上で統合か募集停止を踏るとしていることから大変危機的な状況にあるとの認識を持ってまいります。

これまでの存続運動から前進して思い切った改革をし、存続を確かなものにしていこうという議員のご提案は時節を得たものであり傾聴に値するものと考えます。

提案については、小坂高校発展支援協議会等の関係団体などと検討を行い、小坂町ならではの特色あるカリキュラムによる高校教育を実現するため、積極的に秋田県教育委員会とはもとよりそのカリキュラムに関連する秋田県知事部局に働きかけを行っていきたく考えます。



春を待つ小坂高校

定住自立圏・町民目線町政



中村 明人議員



中村議員 今回、私が質問させていたことは昨年十二月に十和田市や三沢市などと締結した「定住自立圏」についてです。

まず最初に定住自立圏ですが、町としてのようない論見から十和田市や三沢市との提携となったか、さらにこの提携をどのように発展させていこうとしているのか、具体的にその方向性を伺いたいと思います。

町の人が望んでいることは手にとつて分かる、生活実感のある政策の提言、実行です。そこで町長はこの計画を進めるに当たり、十和田湖在住の方々からのご意見、ご希望に直接、耳を傾けられたのでしょうか。

自らの目で十和田湖観光や十和田湖にお住まいの方々の暮らしの現状を見てお考えになられたのでしょうか。

昨年の十一月に休平と大川岱の自治会の方から直接お話を伺うことができました。観光の「再活性化」の可能性については極めて否定的な、絶望とんでもない捉え方をしています。その結果、多くの住民の方が生活の安

定を求め、転出していて極めて厳しい現実があります。

私は十和田市と三沢市が中心になって形成に向けて作成した構想関係の文書を見てみましたが、特にこれによつて小坂町がどのような発展を描いているのか、どのようにして「定住自立」を推し進めようとしているのか皆目分かりません。締結した狙いはどこにあったのでしょうか？定住自立に向けて

たなんらかの具体的なビジョンがあつてのことではなく、とりあえず補助金がつくことだし、形成に賛同し締結しておこうか、といったことでないことを信じていたもので。今まで十和田市などと広域連合的に取り組んできた各種の事業、施策を踏襲するだけの話では、ならん定住自立に結び付かないことはあきらまかです。

十和田湖地区の住民の暮らしを守るという気構えをお示ください。

町長 定住自立圏は、中心市と周辺市町村が議会の議決を経た二対一の定住自立圏形成協定を結び、その積み重ねにより圏域を形成する

もので、具体的には十和田湖を介しての広域観光、十和田湖周辺の児童・生徒の保育及び小中学校への委託、十和田湖診療所の運営、鹿角広域消防と十和田地域広域消防との災害時相互応援協定などです。

中長期視点から広域連携の素地を作り取り組んでいくこととするものです。この構想を進めるに当たり、国から特別交付税による包括的財政措置等、一定の財政支援を受けることができます。

「できることから着実に」を合言葉に、毎年度の見直しの過程で取り組みを深化させていきたいと考えています。

中村議員 次に四か年の町民目線町政の取り組み結果をお聞かせください。

空き家が増え、耕作放棄地が目立ち、外で遊ぶ子どもたちの姿を目にすることがなくなりました。さらに今やわが町は高齢化率四十％を目前にしています。

先日、介護保険利用の現状や明年以降の介護保険利用予測の説明がありました。が、我々、団塊の世代が介護保険の利用状況に大きく影響を与えることは間違いのない事実です。

町民目線の政治とは、町民の日々の不安を取り除き、安心して暮らせる環境を作っていくという、極めて現実的な施策を打ち出していくことだと思っています。

一例をあげると、病気で倒れたらどうしよう、どこで暮らしていけるんだろう、足腰が丈夫な今、みんなと一緒に暮らしを楽しみたい、弱くなつても慣れ親しんだ地区で暮らし続け、できたらそこで見守られ看取られたい。

そういう町民の不安に応えることこそが、町民目線に立った政策ではないでしょうか。

過疎、少子高齢化、限界集落化、耕作放棄地などは全国に共通したことで各県庁はそれらにチャレンジしていくための施策、交付金を用意しています。

農水省の施策を受けて秋田県が提唱している。あきた元気ムラ、や厚労省による地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金しかりです。

現に鶴地区のブドウ栽培は、元気ムラ、として登録してがんばっていますし、この春からパークゴルフが楽しめるみんなの運動公園は市町村提案型の事業としての地域介護・福祉空間整備等施

設整備交付金三千万円と事業推進費三百万円の交付金を受けて整備された、返す必要のない交付金です。この二つのものを活用することで閉塞した地域の現状を大きく好転させることが可能だとわたくしは確信しています。

大事なことは、目的意識を明確にして町政に臨んでいただきたいということです。

町長 秋田県では、過疎化高齢化による集落機能の衰退への対策を図るために「秋田県活力ある農村集落づくり（元気ムラ支援室）」を設置し、市町村における過疎化高齢化した集落の維持・活性化対策をサポートしています。そして小坂町では「みんなの地域づくり事業」により、集落自身が積極的に活性化に取り組めるような支援を行っています。

そのために行政サイドが各集落に足を運び、目配りしたい所存です。



小坂町の通学路の安全確保が十分であるか。通学路の問題についてどのように考えているか。今後どのように対策を進めていくのか。



本田 佳子議員

本田議員 昨年、他県において登下校中の児童の列に自動車が入り、児童が死傷するという事故が連続して発生したことを受けて、小坂町の通学路の安全確保が十分であるか、また、町として通学路の問題についてどのように考えているか、さらに今後どのような対策を講じていくのか、お伺いいたします。



国道282号線 古苦竹地区

町長 昨年、県鹿角地域振興局建設部、鹿角警察署、学校関係者と町の教育委員会、建設課が合同で小坂小学校および七滝小学校の通学路の安全点検を行い、危険箇所を調査を実施。その結果、小坂、七滝小学校管内合わせて、計3箇所が対象必要箇所であった。小坂小学校管内



国道282号線 大生手

の国道の対象箇所については、鹿角地域振興局建設部において既に踏切遮断機を撤去、歩道拡幅を行った。町道川通り1号線は、平成25年度からの2カ年で用地交渉、建物補償を完了し、平成27年度からの工事実施を図りたい。また、平成25年度から事業を実施すべく、新年度予算に調査費等の予算を計上している。

七滝小学校管内国道歩道新設については、県鹿角地域振興局から、地権者との交渉を早めに行うためと協力をお願いされており、町も積極的に対応したいと考える。教育長 三つの危険箇所については合同調査で確認しており、情報は、町のホームページに掲載して町民への情報提供を行っている。具体的な対策については、歩道設置や拡幅は多額の費用と時間を要することから、今すぐに抜本的な改善をすることは困難であるが、児童・生徒への安全確保は何よりもまして大切であり、児童・生徒への注意喚起、道路管理者や関係者への除雪依頼など、現時点で取り得る最善の安全策を考え実施している。今後

も、思わぬ事故に備えるため、引き続き関係者によるパトロールを実施し、必要な対策を迅速に行える体制を維持してまいりたいと考える。

本田議員 国で今回の補正予算並びに平成25年度の当初予算案に、防災安全交付金が今回新たに計上された。この交付金は、社会インフラの総点検、維持・補修に使えるほか、通学路の安全対策にも支援できるところになっていないかと伺っている。平成25年度予算で計上された予算なので平成26年度の事業計画では遅い。この交付金を利用して少しずつではなく、一気にできる

ところは安全な通学路を作っていくのに当ててはどうかと考える。もし、交付金を利用できればどのように考えますか。建設課長 いずれ使えるような交付金があるのであれば危険箇所を再度点検しながら、そのような財源を充てていきたい。



町道 川通り地区

定住促進施策・観光振興などを調査

～常任委員会・事務調査報告～



奈義町での事務調査
(福祉産業常任委員会と合同)

総務教育常任委員会

平成24年11月11日～13日 岡山県奈義町・勝央町

調査
テーマ

- ・定住促進施策について
- ・行財政運営について
- ・住民と協働でつくるまちづくり

奈義町は、子育て支援として様々な施策を行っており、若者が定住でき、安心して産み育てられるまちづくりを目指していました。

①平成24年度から、高校卒業までの医療費を完全無料化。町内から高等学校等に通う生徒に対し、年額5万円を就学支援金として毎年度在学中の3年間支給。

②新築住宅普及促進事業として、町内新築20万円、地元業者施工10万円、県産材使用10万円の最大40万円を補助。

③平成23年度から、住宅用太陽光発電システム設置として1kw当たり3万円、

12万円を限度として助成。

④平成22年度に、若者向け定住賃貸住宅（1棟4戸）を建設等。

奈義町は、人口規模で当町と類似しており、出生数は、平成17年度では37人と過去最低でありましたが、平成18年度以降は年平均48人と上昇傾向にあり、政策の成果が現れているように感じられました。

勝央町の予算規模は当町とほぼ同程度ですが、人口11,500人の町であり、平成17年に11の課を統合し5つの部とする部制に移行しています。部には管理職として「参事」を置いてあり、職員への辞令は部のみとし、業務内容や分担は参事が決めるという弾力的なシステムをとっていました。

大規模工業団地があることから、若者の雇用の場が確保され、12年間人口にほとんど変動がなく、高齢化率が28%（当町は38・5%）と低いのは驚きでした。早くから積極的な企業誘致を行ってきたことが、若者の定住化につながり、人口減少を抑えているものと思われました。

福祉産業常任委員会

平成24年11月11日～13日 岡山県奈義町・美咲町

調査
テーマ

- ・地産地消の取り組みについて
- ・観光産業の振興について

まちづくりについては、町内にある29地区に対して、平成23年度から地域づくり一括交付金として全体で1,500万円を措置していました。交付金の対象となる事業は、道路・水路等の保守保全、環境保全、高齢者福祉、青少年の健全育成及び子育て支援、自主防災等地域の安全・安心等ですが、地域力を高め協働のまちづくりにつながるものと感じました。



勝央町での事務調査

奈義町は、地産地消の取り組みとして、「奈義エコファーマー連絡協議会」を設立し、学校給食に野菜や米、米粉パンを供給していました。

地産地消の成果として、①安心安全な地元農産物の提供、②環境に配慮したエコファーマーの増加、③学校給食との連携、④食農教育の実施、⑤奈義町の特産農産物の宣伝効果等が挙げられています。

特産品として、里芋を中心とした開発が進められており、特産農産物キャラクター「さと丸くん」が宣伝効果を発揮していました。ゆるキャラは、当町におい

でも観光・特産品のPRに大いに役立つものと考えるところから、早期に製作すべきだと思います。

また、地産地消の取り組みや農産物の6次産業化は、当町にとっても推進すべきものと感じました。

美咲町は、当町に関係の深い旧棚原町が合併した町であり、「卵かけごはん」による町起こしや旧片上鉄道の観光活用をはかっていました。

日本棚田百選に選定された棚田で収穫された米と日本最大級の養鶏場の卵を利用した、「ここにでもある」卵かけごはんは、宣伝の仕方でも観光客が来るものと感



美咲町での事務調査



美咲町旧片上鉄道

心させられました。また、卵の「黄色」と「幸福」を掛け合わせ「黄福」をキーワードとした町づくりを進めており、一貫した町づくりの方針を感じました。

旧片上鉄道では、駅構内や車両の動態保存の方法などについて鉄道保存会の方から説明をいただき、当町のレールパーク構想について理解を深めました。

当町の観光振興を考えた場合、豚を食材にしたメニューとレールパークなどの新たな観光素材を活用することによって、観光面で大いに期待がもてるものと感じました。

通年議会のメリットを調査

～議会運営委員会・事務調査報告～

議会運営委員会

平成24年11月8日～9日 宮城県蔵王町

・通年議会について

調査
テーマ

蔵王町議会では、通年議会制の導入、広報広聴常任委員会の設置による各種研修会や勉強会の開催、議会報告会による議会の説明責任の履行や住民の意見聴取、請願における提案者の意見聴取、議会基本条例の制定、反問権の制度化、議員相互間の自由討議など、議会改革への取り組みは多岐にわたっています。

通年議会導入にあたっての一番の問題点は、首長の議会招集権をいかにクリアするか、ここに神経を集中

したようですが、この問題をクリアできれば、あとはほとんど議会内部の問題であり、特に、これまでのスタイルを大幅に変える必要はなく、執行部と課長等に多くの負担を強いるものではないことなど、執行部に対しては十分に説明と理解を求めて、導入に踏み切っていました。

通年議会のメリットとしては、

- ①議員が臨時会の招集請求をする際、議員定数の4分の1以上の者が必要ですが、1回首長が招集すれば、次からは議長の判断で議会を再開できることや閉会中の委員会の継続審査手続きが不要となり、委員長が議長に申し出て委員会をすぐ再開することができそうです。
- ②災害の非常時や所管の調査に対し、即応できます。
- ③委員会の開催が容易にできることから、重大な案件等において、委員会に付託して対応することができそうです。
- ④議会からの議案の提出も可能になります。
- ⑤議会が機動的・機動的にその権能を十分に発揮することができると大きなメリットと位置づけられています。



蔵王町

通年議会導入に当たっては、それぞれの議会が抱える議事運営上の課題や問題点を抽出して、その解決策を協議した中で通年議会をひとつの手段として検討すべきであり、自治体固有の課題に応じた議会運営方法を検討すべきと感じました。

第18回議会報告会 開催のお知らせ

議会報告会は、これまで3月の予算議会終了後と9月の決算議会終了後の、年2回開催してきました。今回で18回目となりますが、町民の皆さんと膝を交えた話し合いは、町政の進展にも大いに役立っていることと思います。また、議会にとりましても、一人一人のご意見、お考えの中から、町政の望むべき全体像を把握し、当局に接することは、今後の「協働の町づくり」においても、よい結果を生み出せるのではないかと考えております。多数のご出席をお願い申し上げます。

開催地区	日	時	場	所	担当委員会			
七滝地区	6月26日(水)	午後6時30分～	ほ	と	り	あ	総務教育常任委員会	
十和田湖地区	6月26日(水)	午後6時30分～	大川岱自治会館	福祉産業常任委員会				
上向地区	6月27日(木)	午後6時30分～	鶴生活センター	総務教育常任委員会				
川上地区	6月27日(木)	午後6時30分～	川上公民館	福祉産業常任委員会				
中央地区	6月28日(金)	午後6時30分～	セ	パ	ー	ム	全	員

編集後記

平成25年第2回小坂町議会定例会が3月に開催され、最終日に二つの特別委員会を議会内部に設けることが決まりました。

ひとつは「議会改革特別委員会」、もう一つは「地域活性化対策特別委員会」です。

より良い議会のあり方を考えようとするもののほかに議会から積極的に提案していこうとする目的によって設けられました。

さらに議会広報対策特別委員会では、より一層わかりやすく、親しみのわく紙面づくりはどうあったらいいのかなど話し合った結果、内容的に町の広報と重複を避ける、活字を大きくして読みやすくする、関連する写真などを取り入れ、見やすい紙面づくりを目指すことになりました。

議会では町当局と一緒に町づくりに取り組んでいます。町民の皆さんからは非会談の傍聴においていただきたいと心より願っております。特に委員会では活発な意見が飛び交います。町づくりへの熱い議論にふれていただきたいと思っております。

私たち議会は現状に坐することなく、真剣に今、何が求められているのかに取り組んでいきたいと行動を始めました。皆さんの率直なご意見をお待ちしております。

(中村)